

地方版レッドデータブックの紹介

角 野 康 郎

全国版レッドデータブックの見直し作業とともに、地方版レッドデータブックの作成も各地で進んでいる。環境庁の資料によると、平成9年10月現在、各都道府県のレッドデータブック作成状況は以下の通りだそうである（環境庁野生生物専門官植田明浩「日本のレッドデータブック・レッドリストについて」、第12回自然環境保全に関する企業セミナー『貴重野生動植物種の考え方とその対応Ⅱ』テキストより集計）。

完成 7 県，作成中 13 都道府県，予定 7 府県，構想段階または未定 17 府県

本誌でも既にその一部は紹介したが、その後入手できたものにつき、まとめて紹介しておく。

○沖縄県環境保健部自然保護課編集・発行『沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物—レッドデータおきなわ』（1996年3月，A4版479p. + 索引）

沖縄県の地域性・独自性を考慮して編集された県版レッドデータブックである。沖縄県の自然環境とレッドデータブックの概要をまとめたあと、前半が植物編、後半が動物編という構成になっている。植物編では「絶滅種」、「絶滅危惧種」、「危急種」、「希少種」としてリストされたシダ植物以上の種が553種、それに加えて現状に関する情報が少ない137種が「未決定種」としてまとめられている。それぞれの種について、形態の特徴、県内の分布、生育状況、減少の原因、文献などが簡潔に記載される。本州とは事情がかなり異なることがわかるが、水草の種の急激な消滅は本州以上かもしれない。もともと産地が少ないためにリストに載ることになった種もあるが、沖縄では水草の現状に関する調査がほとんど進んでいないこともうかがえる。

〔水草の掲載種〕

絶滅種：ジュンサイ、ヨツバリマツモ、トチカガミ、ヒメミクリ

絶滅危惧種：リュウノヒゲモ

危急種：ヒメシロアサザ、ミカワタヌキモ、ウリカワ、マルミスブタ、コスブタ（スブタ）、ヤナギスブタ、ヒメウミヒルモ、オオミズオオバコ、ミズヒキモ、イトモ、カワツルモ、イトクズモ、イトト

リゲモ、トリゲモ、アシカキ

希少種：ミズキカシグサ、ケミズキンバイ、ホザキノフサモ、ミズハコベ、イヌタヌキモ

未決定種：クロモ、コバノヒルムシロ、ハリイ、オオハリイ、ヤリハリイ、アンペライ、ホタルイ、ヒメホタルイ、イヌフトイ、サンカクイ、ナガボフトイ

○広島県編集『広島県の絶滅のおそれのある野生生物—レッドデータブックひろしま』（広島県環境保健協会発行，1995年11月，A4版437p.）

○広島県監修『～レッドデータブックひろしま～広島県の自然と野生生物』（中国新聞社発行，1995年12月，B5版204p. + 索引，2,500円）

広島県版レッドデータブックと、その普及版ともいうべき2冊である。シダ植物以上の高等植物では県内種数2,579種のうち178種（6.9%）がリストされている。広島県は全国でももっとも植物調査が進んでいる県のひとつであるが、選定種がかなり絞り込まれたものとなっている。レッドデータブックは、はじめの総論の最後に、選定種のカテゴリー別一覧表と選定理由と法指定状況（どのような保護の網がかかっているか）の一覧表があり、全体の状況を知るのに便利である。各論は哺乳類に始まり、シダ植物、種子植物が最後に来る。ここでは1種につき1ページをあてて選定要件、近似種との区別、生息・生育状況、生存に対する脅威などが簡潔に解説してある。生育地を市町村名まで明記した種と「県西部」といった漠然とした記載に止めているものがあり、採集による絶滅に対する配慮がうかがえる。

普及版の方はカラー写真を主体にしたビジュアルな構成である。「一次選定種」93種については半ページを写真に、下半分が簡単な種の解説と過去の記録だけになってしまった産地と現存する産地を色分けした分布図からなる。「二次選定種」207種はより簡潔な記載でまとめられている。なお、この「一次選定種」、「二次選定種」というのは、レッドデータブック掲載種の選定が一度に進まなかったことからこのように分けられたようで（実際には普及版のほうが早く出版されたという経緯がある）、重要性に差があるわけではない。最終的にまとめられたレッドデータブックでは、さらに種が追加されている。

〔水草の掲載種〕

絶滅危惧種：ミズニラ、シナミズニラ、デンジソウ、カ

ワツルモ、イトクズモ、オニバス、ミツガシワ、
ガガブタ、コタヌキモ

危急種：ミズワラビ、サンショウモ、オグラコウホネ

希少種：ヤマトミクリ、リュウノヒゲモ、スブタ、サイ
ジョウコウホネ、ヒメコウホネ、バイカモ

○神奈川県レッドデータ生物調査団編集『神奈川県レ
ッドデータ生物調査報告書』（神奈川県立生命の星・地球
博物館発行、1995年3月、A4版257p.）

「神奈川県立博物館調査研究報告（自然科学）」第7
号として発行されたもので、レッドデータブックではあ
るが、「県内の生物種が現在どういう状況にあるかを表
示するに際しては、従来のものとは多少とも考え方を異
にせざるを得なかった」とあるように選定基準にも内容
にも独自性があり、研究報告という性格も強い。過去か
ら現在に至る絶滅または減少のパターンを8つ（A～H）
に類型化して、これを評価のランクとして用いているこ
とも、独自性のひとつである。例えば同じ絶滅種でも産
地が局限されていたものとかつては普通種であったもの
とでは性格が異なるのである。このような評価はたいへ
んな作業と思われるが、膨大な標本を集めて「神奈川県
植物誌」（1988）を編集した蓄積があればこそ可能になっ
たといえよう。

さて、本書は植物篇、脊椎動物篇、昆虫篇からなり植
物篇は13～110ページを占める。植物篇では、まず各ラ
ンクに選定された種、その生育環境や地域ブロックごと
の状況が詳細に述べられたあと、各論としてそれぞれの
選定種の解説に入る。解説は県全体からみた総合評価と
地域ごとの評価、危険性の原因をまとめたあと分布や現
状について簡にして要を得た解説が続き、最後に標本が
引用されている。今回リストされた維管束植物は532種
で、神奈川県産植物の24.4%である。こんな種が絶滅
したのか、と驚くようなものもあり、やはり東京圏の環
境変化のすさまじさを感じる。

〔水草の掲載種〕

絶滅種A（もともと稀→絶滅）：ヒロハノエビモ、イト
クズモ、ムサシモ、ヤリハリイ、イヌクログワイ、
ヒメハリイ、スジヌマハリイ、シズイ、ミツガシ
ワ

絶滅種B（数カ所の記録→絶滅）：ホソバミズヒキモ、
カワツルモ、サジオモダカ、ヒンジモ、ミズアオ
イ、ジュンサイ、ヒツジグサ、ミズユキノシタ、

アサザ

絶滅種C（かつては広く分布→絶滅）：ミズキカシグサ、
タチモ、フサモ

絶滅危惧種D（稀産→1～3カ所）：ヤマトミクリ、エ
ビアマモ、ホッスモ、イバラモ、トリゲモ、ミカ
ワスブタ、コウガイモ、バイカモ、ミズキンバイ

絶滅危惧種E（数カ所→1～3カ所）：デンジソウ、ナ
ガエミクリ、ヒメミクリ、アギナシ、クロモ、ヒ
メウキガヤ、ヒメコウホネ、マツモ、ヒシ

絶滅危惧種F（広分布→1～数カ所）：イトモ、トチカ
ガミ

減少種G（数カ所に減少）：ミズニラ、ミズワラビ、サ
サエビモ、センニンモ、リュウノヒゲモ、サガミ
トリゲモ、トウゴクヘラオモダカ、ヤナギスブタ、
ウミヒルモ、セキシウモ、コツブヌマハリイ、
ヒメホタルイ、イセウキヤガラ

減少種H（広分布→比較的稀に）：サンショウモ、オオ
アカウキクサ、ミクリ、ササバモ、イトトリゲモ、
ミズオオバコ、イヌタヌキモ

なお、これらとは別に過去に記録はあるが「消息不明
種」としてコバノヒルムシロ、エゾヒルムシロ、マルバ
オモダカが挙がり、誤同定の可能性も指摘されている。

○三重自然誌の会編・著『自然のレッドデータブック・
三重—三重県の保護上重要な地形・地質および野生生物—』
（三重県教育文化研究所発行、1995年3月、A4版183p.）

三重県の自主的な研究グループが県内で保護上重要と
考えられる地形と動植物を選定してまとめたものである。
植物では「絶滅種」、「危惧種」、「希少種」が329種リス
トされた。そのうちの危険度の高い種や身近な種が写真
と分布図入りで詳しく解説されている。三重県は自然豊
かな地域を抱えていると思うだけにショウジョウバカマ
やモウセンゴケ、水草ではジュンサイやヒツジグサが挙
がっていることには驚く。選定種の中から危険度の高い
種や身近な種が1ページをさいてカラー写真入りで詳しく
解説されている（この中にヒツジグサも含まれるが写っ
ているのはスイレン）。

〔水草の掲載種〕

危惧種：ミズニラ、ミズワラビ、デンジソウ、アカウキ
クサ、ミクリ、ヤマトミクリ、スブタ、ヤナギス
ブタ、トチカガミ、フトヒルムシロ、シズイ、ヒ
メコウホネ、オニバス、ミツガシワ、アサザ、ヒ

メシロアサザ

希少種：サンショウモ、ヒンジモ、ミズアオイ、ジュンサイ、ヒツジグサ、コウホネ、ガガブタ、タヌキモ類

照会先：514 津市桜橋2-142 三重県教育文化会館内

(有) 三重教文サービス

TEL 0529-28-2077 (内線228)

○長野県自然教育研究会編『信州の希少生物と絶滅危惧種』(信濃毎日新聞社 1997年2月, A5版258p., 1, 854円)

長野県の学校の先生方を主とする「長野県自然教育研究会」のメンバーが信州地方の絶滅危惧種を紹介した読み物である。九つの環境別に代表的な種を取りあげ現状を報告している。目次を見て、「河川～洪水防止の水管理が十分に行われるようになって」、「河川周辺の草原～カヤブコのいない公園に様変わり」、「里山と平地～開発と放置の両極端のなかで」という各章の副題がおもしろいと思った。どのような要因で多くの種が消滅の危機にさらされているかの簡潔な解説が各章のはじめにあり、その後に種の説明が続く。種の解説は単に生態や形態の説明にとどまらず、過去からの変遷やさまざまなエピソードもまじえ、読み飽きないものになっている。全体から見れば植物の記述は少ないが、動物を扱ったページも興味深い。

本書は長野県の絶滅危惧種の全部を取りあげた、いわゆるレッドデータブックのような資料性には欠けるが、取りあげられた生きものたちの解説を通して、種の消滅が起こる背景を実に的確に解説している。他府県の方にも、ぜひ一読を勧めたい良書である。

○(財)三瓶フィールドミュージアム財団編集・発行『しまねレッドデータブック—島根県の保護上重要な野生動植物』(1997年3月発行, A4版 植物編 266p. +動物編 417p., 頒価 5, 250円)

島根県版レッドデータブックである。植物編では島根県に生育する種のうち「緊急保護種」6, 「要保護種」42, 「要注意種」76の計124種が選定された。それぞれの種につき見開き2ページを使って解説(選定理由, 概要, 現状認識と今後の保護対策, 参考文献), 県内の分布図, カラー写真という構成でまとめられている。今までに出版された地方版レッドデータブックの中では紙質も印刷

もいちばん良く, スペースも贅沢にとった造りになっている(これを資源の無駄使いと批判する向きもあるかもしれないが, それだけ重みのある出版として位置づけられているのだと理解したい)。

水草と湿生植物で選定された種は次のとおりである。

要保護種：デンジソウ, サクラバハノキ, オニバス, リュウキンカ, イヌセンブリ, ミツガシワ, チャウジソウ, サギソウ

要注意種：ミズニラ, シナミズニラ, タコノアシ, オグラノフサモ, アサザ, ガガブタ, ミクリ, ヤマトミクリ, ヒメミクリ, ナガエミクリ, カワツルモ, サギスゲ, スジヌマハリイ, ヒトモトススキ, アンペイ

なお, 本書は下記に申し込めば入手できる。

690 島根県大田市三瓶町多根1121-8

島根県立三瓶自然館 (TEL 08548-6-0216)